
いきる

龍武

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

こあら

【ZPDF】

N7121A

【作者名】

龍武

【あらすじ】

やる気の無い青年、江嶋拓哉が体験する、「こあら」とは一体何であるのか？

始まり

太平洋に浮かぶ島々の中に、名も無いような島が数多くある。

その名も無い島へ向かう一直線の白い波・・・。

その波の先頭に真っ白な船が1艘。凄いスピードで走っている。

「よーよー、おっさん。いつまでこんな船に俺を乗せておくつもりだー?まさかこのまま外国へ売り飛ば・・・。」

「そんな馬鹿な真似はしないさ。それとも、売り飛ばして欲しいか?
?」

体は日に焼けて黒く、白髪の混じつた初老の操縦士は、笑いながら冗談を言つ。

・・・・・。この船に乗船して何時間たつだろ?・・・。主人公の江嶋はそう考えていた・・・。

始まり（後書き）

えー。はつきり言つて、初めての投稿です。
文章がおかしい所、多々あると思いますが、御容赦願います。

最後までお読み下さつたら、光榮です。
よろしくお願いします。

回想

「うーーーー。暑いーーーー。やる気がでねえーーーー。」

2週間前の俺は梅雨独特の蒸し暑さにやる飯を吸収しつぶされていた。

何もやる気にならない。仕事どいろか、食事を作るのも面倒になっていた。

大学を卒業した俺は、就職活動に失敗し、ただただ、一日寝床に入っていた。

寝床から出るときといえば、便所か、食事。テレビゲームなどである。

・・・そんな生活が、5年と、2ヶ月続いていた。そんなある日の事。

3週間に1回は、郵便物のチェックをしている。

外出といえば、郵便物のチェックと飯の買出しぐらいだ。

飯といつても、インスタントで済ませてしまう。そのような生活が

続いた。

「だあー・・・。やつぱりダイレクトメールしか来ないか・・・。」「

わべな商品もなく、ただ暇つぶしで全てに手を通してみる。

「液晶テレビ・・・? えつーそんなにするのか!」

買う気もなく、ただ値段を読み上げて、驚く俺が、すこし恥ずかしくなった。

そして、次の手紙・・・「その手紙」に手が触れ、俺の視界に入ってきた。

「会社は・・・。なんも書いてねえ。なんだ? いたずら・・・か?」

いたずらでも何でも良かつた。とにかく、内容が知りたかつた。

「まわか・・・不幸の手紙じゃないだろ? な・・・。不幸なのに、不幸が来てどうあるんだよ・・・。」

中を開いて、手を通すと、そこに何か書いてあった。

親愛なる江嶋君へ

良い休日をお楽しみでしようか。

わざと、君の事だから、退屈にしてくるんじゃないでしょうか。

けど、退屈が吹き飛ぶ、とても面白い話をしてあげましょ。

2週間後、××市の港に1艘の船を用意しました。

そのふねに御乗船下さい。ヨロシク。

「はあ？何で俺が…………面白そう……だな。」

流れのような文字で、丁寧に、かつ力強く手書きの便箋が封筒の中に1枚、入っていた。

「けど……船に乗つて何するんだ……暇つぶしにはなる……か。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7121a/>

いきる

2010年10月20日19時09分発行